

第23回加齢美Symposium 《Beautiful Aging》

～素敵な人生は、美しい髪から始まる。～

東京・渋谷のさくらホール（渋谷区文化総合センター大和田）で5年ぶりに開催された『加齢美シンポジウム』。ベル・ジュバンス60周年、山崎伊久江が理事長に就任して初めての記念すべきシンポジウムは今年、23回目を迎えました（オンライン配信も同時に行いました）。



◇オープニング

ベル・ジュバンスの生みの親である初代・山崎伊久江の赤ちゃん時代から、美容業界で活躍する姿、講習会、第3回のシンポジウム、そして2代目・山崎伊久江理事長が活躍する姿が映像で紹介されました。

続いて山崎理事長と山崎伊久江研究会の2人の副会長・遠藤繁樹、村木秀行が、“羽ばたく”をテーマにミニステージを繰り広げ、会場からは惜しめない拍手が送られました。



船崎恵子副理事長が開会の辞を述べた後、いよいよ講演がスタートしました。



◇基調講演 山崎伊久江理事長

山崎伊久江理事長は来場者やお店に通われるお客さまに感謝を伝え、アルカリコールドパーマ液が当たり前の時代に初代・山崎伊久江が「弱酸性が良いのですよ」と声を上げて研究し始めた意志の強さや勇敢さは「すべてお客さまの肌や髪を傷めずにパーマを



かけて差し上げたい」という思いからだったのだと思います。この開発者の思い、そして世界にひとつだけの薬ということをお忘れずに、世間や美容業界にアピールしていきます」と話し、さらに、初代が加齢美について“美しくなるにはまず自分が学び、学んだことを人に伝え、歳を重ねても活気を持ち美しくいること”と提唱したことを紹介し「これからの2年間を学びの年として、2年後のシンポジウムは皆さん、若返って来場してください。私も“伊久江先生、お疲れね”と思われぬよう、今後の2年間は“学び”と“伝える”ことをしていきます」と話しました。

◇講演1

毛細血管のゴースト化と個体の老化

講師：高倉伸幸先生（大阪大学微生物病研究所 情報伝達分野 教授）



高倉先生は毛細血管の重要性について、研究結果を示しながら講演されました。近年、毛細血管は加齢により減少することが分かり、減少すると最終的には失明に至る加齢黄斑変性症を引き起こしたり、骨粗鬆症、認知症の原因の一つとなることが解析されました。

毛細血管のケアにはバランスの良い食事と軽い運動、リラックスと質の良い睡眠が必要だそうです。毛細血管のゴースト化（減少）を予防して、ビューティフルエイジングを！ と話されました。

◇講演2

ヘアケアと顔面筋ヘルスケア

講師：宝田恭子（宝田歯科医院院長）

宝田先生は弱酸性美容法を実践されています。情報誌「pHi5.0」172号では“～骨を鍛えて、顔とボディーの美しさを保つ～パタカラ骨盤底かかと落とし体操”をご紹介いただきました。講演では「ヘアケアと顔面筋ヘルスケア」のテーマで、事例をふんだんに交えながらお話しし、簡単にできる予防やケアのためのエクササイズもたくさん教えてくださいました。口腔内のpHについて、食後は酸性に傾き、唾液が徐々に中和して元に戻るの、食後10～15分間にできるだけうがいをするのが大切、とのことでした。



◇まとめ

山崎伊久江理事長

「世の中には、髪の毛で悩んでいる女性がたくさんいます。私たちは正しい美容法、正しい知識を一人でも多くの人々にお届けすることを使命としています。父（山崎光信前理事長）が生前『弱酸性美容法をしている人は、何故肌がきれいなのだろう？』と話していましたが、毛細血管が関係しているのではないかと考えていたようです。そこで、高倉先生にお話しいただきました。宝田先生はベル・ジュバンスを良くご存知の方なので、皆さまはよりお話しに共感されたのではないのでしょうか」と講演を振り返りました。

◇正副理事長紹介

左側：船崎 恵子 副理事長
中央：山崎 伊久江 理事長
右側：宇佐美 宏明 副理事長



◇シンポジウムテーマ表彰



今回のシンポジウムテーマは
長崎支部の佐藤昌起先生が考えられたテーマで
した。
佐藤昌起先生は前回に引き続き2回目の表彰と
なりました。

◇閉会の辞

宇佐美宏明副理事長



明日から講演内容をお客さまにお話ししながら、世間にベル・ジュバンスを広めて
いきたいと思っております。一日お疲れ様でした、と閉会の辞を述べました。

※シンポジウムの件は機関誌pHi5.0 175号でさらに詳しく掲載しております。